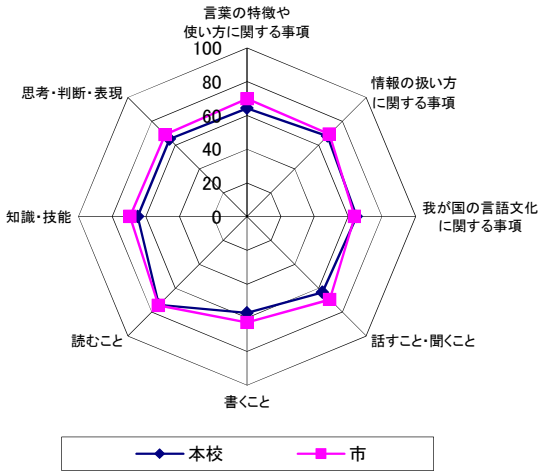
宇都宮市立新田小学校 第６学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.3	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	67.5	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	65.0	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	63.3	69.5	71.5
	書くこと	57.1	62.8	67.1
	読むこと	74.0	74.4	73.7
観点別	知識・技能	64.8	69.4	71.9
	思考・判断・表現	65.1	68.8	70.6

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

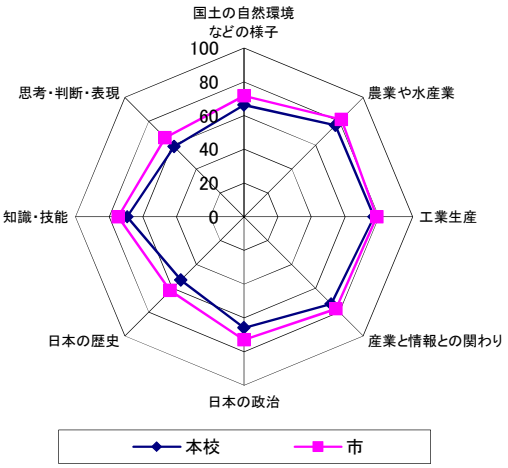
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・平均正答率は，市より5.6ポイント下回った。 ○「敬語の使い方の問題」では，市と同程度だった。 ○「和語，漢語，外来語」についての理解を問う問題では，市より1.2ポイント上回った。 ●「文脈に沿った適切な漢字の使い方」についての問題では，市より10.8ポイント下回った。	・国語科以外の教科においても，ノート指導など文章を書く機会を増やし，書き終えた文章を見直す習慣を身に付けるとともに，習った漢字は意識して使うように指導する。 ・同音異義語を使い分けられるように短文作りや言葉集めなどを取り入れて指導する。漢字の練習では，それぞれの漢字の意味を理解して使えるように工夫する。
情報の扱い方に関する事項	・平均正答率は，市より1.7ポイント下回った。 ○「情報と情報との関係について理解し，目的に応じて，文章を簡単に書く」問題では，市より1.7ポイント上回った。 ●「目的や意図に応じて，書き表し方を工夫する」問題では，市より9.9ポイント下回った。	・無回答が17.5%だったので，話の要点を捉え，要約する力を育むために，発達段階に応じた指導を繰り返していく。 ・調べ学習において，図書資料を活用してまとめられるよう，目的や意図に応じた情報を抜き出し，簡潔な文章を書くように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	・平均正答率は，市より1.2ポイント上回った。 ○「第6学年に配当されている漢字」の問題では，市の平均を上回った。 ●「第5学年に配当されている漢字」の問題では，市の平均を下回った。	・新出漢字の学習をする際には，正しく書き取ることに加えて，漢字の由来や成り立ちについて触れ，漢字の面白さに気付かせ，興味関心をもって学習できるようにする。 ・前年度の復習をAIドリル等で行う。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は，市より5.8ポイント下回った。 ●「インタビューの内容を聞き取る」問題では，市より下回った。特に，「話の内容を捉える」問題では，市より11.2ポイント下回った。	・聞く意識を高めるために，発達段階に応じた指導を繰り返していく。 ・話合いの場では，自分の立場や意図を明確にして発言することの大切さを学ばせ，日常生活での経験を積み重ねながら継続的に指導する。
書くこと	・平均正答率は，市より5.7ポイント下回っている。 ●「自分の意見とその理由を明確にして書く」問題では，市の平均を下回ったが，7割を超える正答率だった。	・根拠を明らかにして自分の意見をまとめることを，様々な教科において継続的に指導していく。 ・無回答が18.8%なので，文字数や使う言葉，段落の指定など，決まった条件に合わせた作文指導を取り入れる。また，自力で文章をまとめられるように推敲し，清書をする時間など自分の文章をじっくり検討する時間を十分に確保する。
読むこと	・平均正答率は，市平均と同程度だった。 ○「物語の内容を読み取る」問題では，全体的に市より上回っており，特に，「文章を読んで，自分の考えを広げる」問題は9.2ポイント上回った。 ●「説明文の内容を読み取る」問題では，全体的に市より下回った。	・説明文では，読み取りで使うキーワード（事実，考え，疑問，問いと答えなど）や，接続詞に注目して内容を読む指導をする。また，筆者の考えや伝えたいことは，どの段落に，どのように書かれているかを捉えた上で，段落構成を考える場を設ける。 ・物語文では，登場人物の心情について想像しながら読み進める授業を行う。また，発達段階に応じて，自分の好きな場面や登場人物について，根拠を明確にしながら友達に伝え合う活動を取り入れる。

宇都宮市立新田小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	66.3	71.6	67.5
	農業や水産業	76.7	81.5	82.1
	工業生産	77.1	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	73.1	77.2	68.2
	日本の政治	65.9	73.1	77.9
	日本の歴史	53.1	62.0	65.8
観点別	知識・技能	69.3	74.6	74.5
	思考・判断・表現	58.8	66.2	65.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

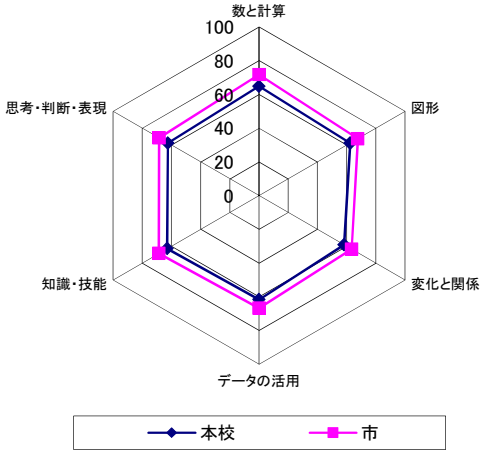
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・市平均正答率より，5.3ポイント下回った。 ●「国旗と国の位置」に関する問題については，市の平均より大きく下回った。 ●「森林の働きをとらえる」問題については，市の平均より大きく下回った。	・地図の読み取りに関しては，定期的に地図帳などを活用し，知識の定着を図っていく。 ・森林の働きについては，ニュースなどから話題を提示し，興味関心を高め理解を深めていく。
農業や水産業	・市平均正答率より，4.8ポイント下回った。 ●「地産地消」に関する問題については，市の平均より大きく下回った。	・児童の興味関心を高めるために，資料の提示の仕方を工夫し，理解を深める。 ・グラフなど資料の読み取り方も指導していく。 ・給食の時間などを活用し，地産地消の意味を理解できるようにする。
工業生産	・市平均正答率より，1.6ポイント下回った。 ○「自動車工場の作業工程」に関する問題については，市と同程度である。 ●「自動車の出荷の工夫について」記述する問題では，市よりも3.4ポイント低い。	・映像資料を使うなど資料の提示を工夫し，児童の関心を高める。 ・普段の授業から，資料から読み取ったことを自分の言葉で表現できるようにする。
産業と情報との関わり	・市平均正答率より，4.1ポイント下回った。 ○「メディアの特徴」に関する問題については，市の平均を大きく上回った。 ●「コンビニエンスストアの発注システム」に関する問題については，市の平均を大きく下回った。	・情報を提供する側と受け取る側と，それぞれの立場で考えるなどの体験的な活動を通して，課題意識をもったり，判断力を身に付けたりできるようにする。 ・商品発注にはどのような仕組みが取り入れられているのか，実際の例を用いて話し合う活動を取り入れる。
日本の政治	・市平均正答率より，7.2ポイント下回った。 ●「三権分立の仕組み」に関する問題については，市の平均を大きく下回った。	・図などを利用して，知識の定着を図る。 ・国民審査と国民投票の違いについては，「審査」と「投票」という用語の意味を捉えた上で，日常生活に関わる具体例を挙げて説明し，知識の定着を図る。 ・国会の働きについては，法律を決めるまでのことについて疑似体験をしたり，図でまとめたりして理解を促す。
日本の歴史	・市平均正答率より，8.9ポイント下回った。 ○「豊臣秀吉の政策」に関する問題については，市の平均を大きく上回った。 ●「古墳時代や奈良時代」に関する問題については，市の平均よりも大きく下回った。	・学習のまとめをする際，時代や単元ごとのキーワードを必ず入れて，自分の言葉でまとめるようにする。 ・映像資料や資料集を使い，児童の興味関心を高める。 ・図書資料を教室に配置し，歴史に関心をもてるようにする。

宇都宮市立新田小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	64.9	71.8	76.2
	図形	62.5	67.7	67.8
	変化と関係	58.3	63.4	62.7
	データの活用	61.7	66.7	61.5
観点別	知識・技能	62.9	68.6	70.7
	思考・判断・表現	62.5	68.5	66.0

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

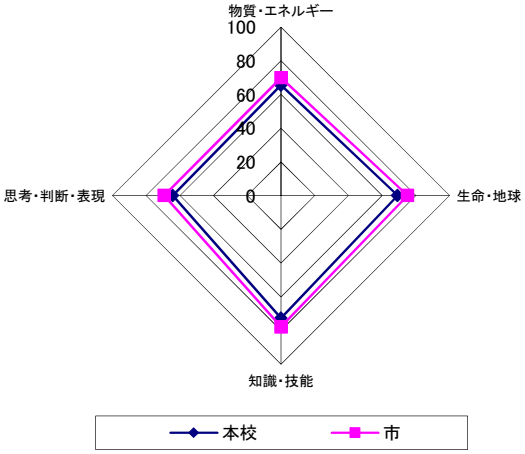
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は，市より6.9ポイント下回った。 ○「分数×分数や分数÷分数」の計算は，校内正答率が8割を超えた。 ●「小数第二位÷小数第一位＝小数第二位」の計算は，市の正答率より13.4ポイント下回った。 ●「図を見て小数倍を求める」計算は，市の正答率より13.7ポイント下回った。	・授業の導入や朝の学習に，繰り返し計算問題を取り組ませることで，知識の定着を図る。また，具体物や数直線を用いて，個に応じて指導を行い理解を促す。 ・わる数が二桁以上の計算は，商の見当の付け方を確認しながら練習問題を繰り返す。 ・文章問題の学習では，数直線や図を書いたり読み取ったりする習慣を付けさせ，問題の内容の理解を促す。
図形	・平均正答率は，市より3.1ポイント下回った。 ○「高さが図形の外にある三角形の面積を求める」問題では，全国の正答率よりやや上回った。 ○「点対称な図形について，対応する辺を求める」問題では，市の正答率より4.1ポイント上回った。 ●「2つの内角の和から外角を求める」問題は，市よりも11.4ポイント下回った。	・三角形の内角の和を求める問題は，基礎を再確認して，すでに分かっている数値や不足している数値を書きこむ等，情報を整理しながら考えるように指導する。 ・図形の学習に関しては，個に応じて具体物や半具体物を用いて，体験的に学習を進めていく。また，フラッシュカードや掲示などを工夫し，手軽に確認できるようにすることで，特徴や性質について視覚的に捉え，知識の定着を図る。
変化と関係	・平均正答率は，市平均と同程度である。 ○「値に0がある連続量の平均を求める」問題では，市の正答率とほぼ同じである。 ●「割合を求める」問題では，市の正答率から5ポイント下回った。	・「単位量あたりの大きさ」では，「基準量」や「比較量」の意味について，言葉や図で分かりやすく説明する。数直線や図に書き入れる活動を取り入れる。 ・立式する際は，用語を書きこんだり，図を用いて説明したりするなど具体的な活動を通して，理解を促す。
データの活用	・平均正答率は，市平均より2.5ポイント下回った。 ○「柱状グラフの読み取り」の問題では，校内正答率が8割と高い。 ○「帯グラフを読み取り，本の貸出率が多いかどうかを検討する」問題では，市の正答率よりも6.8ポイントも上回った。 ●「欲しいデータを求めるために，必要な情報を選ぶ」問題では，13.3ポイント下回った。	・様々な表やグラフの読み取り方を理解し，グラフの割合から実際の数を計算するなど，何度も繰り返し取り組むことで知識を定着させ，活用力を高める。 ・発展的な問題に取り組み，思考力の向上を図る。

宇都宮市立新田小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.5	69.9	67.8
	生命・地球	69.2	75.1	73.7
観点別	知識・技能	72.6	77.8	78.4
	思考・判断・表現	64.2	69.4	66.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は，市より4.4ポイント下回った。 ○「メスシリンダーのメモリの読み方」を問う問題では，正答率91.3%と市の平均を5.8ポイント上回り，基礎的な道具の使い方が身に付いている。 ○「ふりこのきまり」の基礎的な思考力を問う設問の正答率は市と同程度である。ふりこの1往復する時間とふれはばの関係を理解しており，条件を変えたふりこが1往復する時間を推測することができた。 ●「物のとけ方」の，溶け残った食塩をすべて溶かす設問では，正答率27.5%と，市の平均を21.3ポイント下回った。 ●「水よう液の性質」の，炭酸水に何が含まれているかを問う問題では，正答率が68.8%で市よりも10.5ポイント下回った。	・根拠を基に仮説を立て，見通しをもって実験し，結果を踏まえて考察をするという学習の仕方を継続的に指導する。 ・実験の結果をまとめる際に，ポイントとなる事象や考え方を自分の言葉で表現できるようにする。 ・発展的な問題に取り組ませ，思考力や表現力を伸ばす。
生命・地球	平均正答率は，市より5.9ポイント下回った。 ○「空気中に含まれている気体」を問う問題では，正答率が91.3%と，市よりも2.4ポイント上回った。 ○「生物とかんきょう」の生物同士の関係を問う問題では，正答率87.5%と，市よりも1ポイント上回った。 ●「食物連鎖を利用したアイガモ農法の利点」を記述する問題では，正答率41.3%と市の平均を15.3ポイント下回った。 ●「地球からの月の見え方」を人とボールに置き換えた実験では，正答率が68.8%となり市の平均を13.9ポイント下回った。	・各単元のキーワードとなる言葉を「理科ワード」としてまとめ，ポイントを押さえられるようにする。 ・実験や観察の目的を明示し，見る視点を明確にした授業を展開する。 ・単元の初めに，既習事項を振り返り，基礎的な知識や用語を確認する。 ・単元の中で繰り返し出される言葉や考え方に着目させて，考察させることを継続して指導する。

宇都宮市立新田小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	学校課題として「自ら学び，互いに高め合う児童の育成～自分の思いを表現し，学び合う授業の工夫～」を研究主題に掲げて，全教科で実践してきた。これからも，児童が目的意識をもって進んで課題解決に向かい，対話により思考力を深めていけるような授業展開の研究を進めていく。	「基礎」の区分において，国語は市平均正答率より4.5ポイント，社会は6.2ポイント，算数は6.2ポイント，理科は3.9ポイント，それぞれ下回っている。 観点別「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらも，市平均よりも平均5ポイント以上下回っている。
読解力・表現力の育成	自分の考えを整理したり，学んだことを生かして課題に取り組んだりする力を身に付けさせるため，話合い活動やノート指導の充実を図る。また，思考の過程を振り返りながら，キーワードを用いて自分の言葉で学習のまとめを記述することにより，学力の定着を図る。	国語の物語文を読み取ることは市の平均正答率を上回っているが，課題に応じて文章を書くことは市よりも低くなっている。社会，算数，理科においては，問題文の意図を正しく読み取ることができていないという傾向が見られた。 「授業で習ったことを自分なりにノートなどにまとめている」の肯定割合は昨年度よりも高まった学年が多かった。
家庭学習の習慣化	本校の重点目標である「児童の主体的な学び」を促すため，宿題だけではなく，自主学習を奨励している。	「自分から進んで学習に取り組んでいる」と回答した本校児童の割合は，下学年は市の平均よりも高い結果となったが，4年生から市の平均を下回り，その差が学年が上がるにしたがって大きくなっている。3年生以上の設問である「自分で計画を立てて，家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は，市の平均を大きく下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・どの教科においても基礎基本の定着に課題が見られる。基礎的な知識が十分に定着していないことで学習への意欲が学年が上がるにしたがって低くなると考えられる。そこで，目標に向かって努力することの大切さに気付かせ，学校での学習態度の改善や反復練習の習慣化を図り，家庭でも自主的に学習に取り組めるように，学習意欲を全般的に高めていく。また，個に応じてスモールステップで，何度も学び直しができるようにしていく。

・問題文を読み取ったり，自分の考えを表現したりするための語彙力を向上させるために，読書指導を継続して行う。学習した言葉を使って文章を書く作文指導などを取り入れることを通して，自分の考えを整理し，学んだことを生かして課題に取り組む力を身に付けさせたい。

・「自ら学びに向かう児童を育成するための授業改善」を継続し，児童が対話を通して考えを広げたり深めたりできるような授業展開を工夫し分かる喜び，考える楽しさを味わえるようにする。